世界がわかる。ADRAがわかる。
ADRA News
アドラ・ニュース
9
2017 Sep
vol. 113

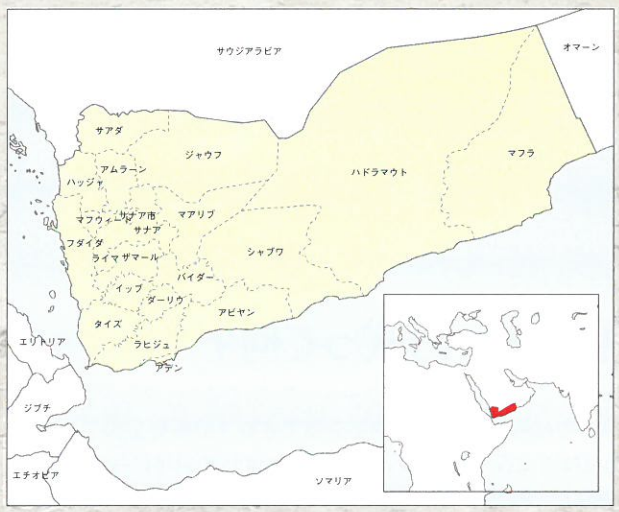
イエメンってどんな国？｜イエメン危機のいきさつ｜ADRAがイエメンで行っている支援｜バウチャー方式って何？｜知ってくださいイエメンのこと｜九州豪雨　災害ボラセン運営支援と看護師を派遣｜ミャンマーに新しい学校ができました！｜コラム｜アドラの力｜編集後記

イエメン人道危機

長引く内戦・戦乱の影響で、食料と飲料水が不足

イエメンってどんな国？

イエメン共和国は中東のアラビア半島の最南端部に位置する国です。アラビア海に面し、海の向こうは「アフリカの角」ソマリアです。かつては世界遺産にも登録されている首都サナアの町並みなど、中世の面影を色濃く残す、のどかな砂漠の国でした。しかし長引く内戦と諸外国の介入による空爆の激化により、社会・経済は混乱。港湾・空港は閉鎖され、海と山と砂漠に囲まれた「陸の孤島」から国外に逃げ出す道さえも絶たれ、家を失った人々はいま、爆撃を避け、国内避難民として厳しい生活環境下に置かれています。



イエメン危機のいきさつ

イエメンでは2004年から現政府派と反政府派勢力との間で紛争が続いていました。2014年9月以降、各地での大規模な武力衝突に発展し、さらに2015年3月からは政府軍の要請を受けたサウジアラビア主導の連合軍が軍事介入しました。空爆が開始されたことで戦況はさらに悪化し、武力衝突はイエメン全土に広がりました。

現在イエメンでは、国民の約10人に1人が国内避難民となっています。また2017年3月時点で、人口の約6割が定期的な食料を得ることができない状態にあり、約7割にあたる1,880万人が人道的支援を必要とする状態にあります。

もともとイエメンは降雨量が少なく、飲み水はポンプで汲み上げる地下水が頼りでした。空爆による井戸の破壊や相次ぐ戦乱で輸入食料と原油流通が不安定になり、飲料水の価格が高騰しています。国内避難民や貧しい人々は水が入手できないため、飲料に適さない池の水などを利用せざるをえず、深刻な状況となっています。

支援物資の衛生キットを受け取る子どもたち

ADRAがイエメンで行なっている支援

5,000リットルのタンクを据えた給水拠点

イエメンでは2015年から周辺国による空爆が開始され、国内情勢が一気に悪化しました。戦乱による死者は6,000人を超え、多くの人々が国内避難民となっています。

ADRA Japanは、ADRAイエメン支部（ADRA Yemen）と協力し、2015年12月から北部のアルジャウフ州とその周辺地域で、国内避難民と生活が困窮している人々に対して、食料、衛生キット、生活用品の配付などの支援を行なっています。また2016年3月からは緊急支援として、給水事業を開始しました。

これまでに約2万4千世帯に食料や水などの支援を届けてきました。今後さらに約1万世帯に支援を届けていく予定です。

食料支援は、各家庭が地域の市場で必要な物資と交換できる「引換券」を配布する「バウチャー方式」を採用しています。これは一方的な物資支援ではなく、常に現地の人々の目線で物を見、復興に向けた現地の人々の「力」を信じて応援する、ADRAの基本姿勢に基づくものです。

上腕の太さを測定することで、栄養状態を検査

バウチャー方式って何？

イエメンでの食料支援は「バウチャー方式」を採用しています。バウチャーとは各家庭が配布物と交換できる「引換券」のことです。配布物も支援団体が買い付けてきた食料を現地に持ち込むのではなく、ADRAと契約を結んだ地元の業者に直接、食料の調達を依頼します。物資購入代金が地元業者に回るため地域経済の活性化効果が期待できます。また、地域の人々が日頃食べ慣れている食品を手に入れることができ、喜ばれています。

バウチャーはIDカードを確認、拇印をもらって配付

※本事業は皆様からのご支援とジャパン・プラットフォームの助成金で実施しています。

現地との信頼関係が要

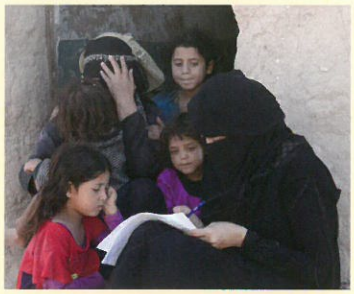
「バウチャー方式」は、支援団体にとっても、食料の調達・運搬・貯蔵の手間とリスクを省くことができメリットは大きいです。しかし地域の市場システムがきちんと機能していることと、信頼できる業者に業務を委託できるかどうかがポイントとなります。ADRA イエメンは、活動経験が長く、これまで現地で様々な活動をしているため、公正で信頼できる業者を探すことができます。事業地のコミュニティや現地の業者との信頼関係を築いている現地支部を持つADRAの強みを活かして、必要な支援を、必要な時に、必要とされる場所へ確実に届けます。

イエメン事業担当　小出一博（こいで かずひろ）

知ってください イエメンのこと

イエメンの内戦は紛争激化から２年が経つ今日でも、いまだに終結する見通しが立っていません。日本の外務省は現在、イエメンを安全情報「レベル４」（退避勧告、新たな渡航を禁止する）区域に指定しています。日本からは民間人は現在、イエメンに立ち入ることができず、マスコミで取り上げられることもほとんどありません。

そのためイエメンの問題についてあまり知られていないのが実情ですが、いまイエメンで起こっている人道危機のことを広く知らせ、興味をもっていただくことも、大切な支援活動となります。



ADRAは今後もイエメンに必要な支援を届ける活動を続けていきます。皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

1日100円の寄付が大きな力に

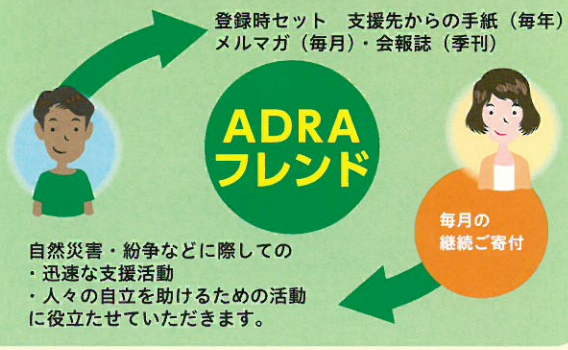
私たちの仲間 ADRAフレンドになってください！

ADRA Japanは、継続寄付「ADRAフレンド」を募集しています。イエメンのような長引く人道危機への支援や、世界各地の困難な状況下の子どもたちへの教育支援などには、長期にわたる息の長い支援活動が必要です。
私たちの活動を支える仲間になってくださいませんか？
皆様からの継続的なご寄付が私たちの活動の支えとなります。
お申し込みをご希望の方はご連絡をいただければ、お申込書をお送りいたします。
皆様からのお申し込みを心よりお待ちしております。

申込・問い合わせ先

TEL 03-5410-0045

お申し込みの他、ご不明点等ございましたら、何なりとご連絡ください。



号外 九州豪雨 災害ボランセン運営支援と看護師派遣

福岡県、久喜宮地区の被災状況

ADRA Japan は、2017年7月5日から九州北部で発生した記録的豪雨の被災地で支援活動を行なっています。

これまで行なった主な支援としては、まず大分県日田市社会福祉協議会へ雑巾1,000枚を送付、福岡県朝倉市の避難所へ物資を提供、そして日田市災害ボランティアセンターへ看護師を派遣しました。特に災害ボランティアセンターでは、ボランティア活動を行なう方々の熱中症や裂傷、蜂さされ等に対応する看護師が不足していました。さらに、東峰村災害ボランティアセンターへ現在もスタッフを派遣し、同センターの開設及び運営を支援しています。同センターでは、土砂出し（掃除）等の支援ニーズの聞き取りをし、ボランティア人員とのマッチングを担当しています。ニーズに応えるだけでなく、住民の方が不安を覚えたり問題が発生したりした時にすぐ対応できるよう見守っていくことも大切だと考えています。ADRA Japan は現在の活動を継続しながら、在宅避難者の方にも必要な支援を行なうことを検討していきます。

※本事業は皆様からのご支援とジャパン・プラットフォームの助成金で実施しています。

ADRA News 113号　2017年9月1日発行　発行人：浦島靖成　編集人：山本 匡浩　発行：特定非営利活動法人ADRA Japan　協力：エースデザイン
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前1-11-1　TEL. 03-5410-0045／FAX. 03-5474-2042　E-mail：support_adra@adrajpn.org　WEB：http://www.adrajpn.org
facebook.com/adrajapan　@ADRA_Japan

完成した校舎

歌手の由紀さおりさんと安田祥子さん

ミャンマーに新しい学校ができました！

校長先生から感謝状の贈呈を受けました

ADRA Japanは、ミャンマーで学校建設を行なっています。3月末、校舎とトイレを建設、机・椅子・ホワイトボードなど備品を提供したサーピュズ小学校で、開校式が行なわれました。本事業で協働する公益財団法人イオンワンパーセントクラブの皆様、支援者の皆様、在ミャンマー日本大使館の皆様、ミャンマー教育局等政府関係者の皆様、地域の皆様など多くの方が出席されました。式典では関係者のスピーチ、小学校からの感謝状贈呈のほか、子どもたちによるダンスも披露されました。終盤には歌手の由紀さおりさんと安田祥子さんによるミニコンサートが行なわれ、現地の子どもたちと一緒に日本の童謡を合唱しました。

今号のコラム　10月6日は何の日？

10月6日は何の日かご存じですか？1954年の同日、日本はコロンボ・プランへの参加をきっかけに、政府開発援助（ODA）をはじめました。コロンボ・プランは第二次世界大戦後、アジアや太平洋地域の国々の発展支援のためにできた国際機関です。この国際機関への参加を記念して、10月6日を「国際協力の日」と定めているのです。この時期、グローバルフェスタなど、様々なイベントが開催されます。グローバルフェスタにも、ADRA Japanは例年通り出展しました。

イベント情報

グローバルフェスタJAPAN2017 **Find your Piece!** ～見つけよう、わたしたちにできること～

2017年9月30日（土）・10月1日（日）　【会場】お台場センタープロムナード（東京都江東区）

アドラの力

「ADRA Japanを支えてくださる方をご紹介します！」

継続寄付

福島県福島市在住　県立高校教員　**大澤 和巳**（おおさわ かずみ）さん

東日本大震災（東京電力福島第一原発事故）の時、勤務する高校へ学校支援として制服やカバンなどを支援してもらったことがADRAを知るきっかけでした。「支援」と言うと大げさに聞こえますが、私は身近に起こっていることに常に関心をもつことだと心がけています。無関心が人と人との絆を薄くし、心の通い合わない世界をつくります。いつの時代も犠牲になるのは立場の弱い子どもたちです。私にできることはささやかでも、世界の恵まれない子どもたちのために、これからも支援事業にかかわりたいと思います。

編集後記

今号のADRA Newsいかがでしたでしょうか。あまり報道されないイエメンに関心を持ってほしい、という想いで企画をしました。また今回は制作体制が大きく変わり、誌面もリニューアルしました。支援活動だけでなく広報もよいものにしたい！という想いで、進化していきますのでご期待ください（編集担当：山本）

ADRA Japanは「人間としての尊厳の回復と維持」を実現するため、キリスト教精神を基盤として、人種・宗教・政治の区別なく世界各地で国際協力活動を行なっています。

ADRA JAPAN